

第7回 文理融合シンポジウム

量子ビームで歴史を探る —加速器が紡ぐ文理融合の地平—

KEK 物構研では、ユニークな特徴を有する J-PARC MLF(MUSE) の世界最高強度の負ミュオンビームの優位性を生かし、文化財をはじめとする人文科学資料の研究にも活用する可能性を秘めた、新たな非破壊研究手法を開発してきました。その一方で、これまでも放射光や中性子などを用いた様々な文化財科学の研究が行われています。

そこで、放射光・中性子・ミュオンなどの量子ビームを利用する文化財研究の第一人者が一堂に会して、これまでの考古学研究、並びに関連研究、更に分析技術を紹介し、文理融合研究の可能性を探る本シンポジウムを開催するに至りました。2019 年度に、第 1 回文理融合シンポジウムが国立科学博物館、第 2 回が大阪大学中之島センターにおいて開催され、その後、第 3 回、第 4 回、第 5 回がオンライン開催されました。第 6 回は大阪大学 豊中キャンパス 南部陽一郎ホールにて、ハイブリット方式（オンライン型と会場参加型の同時開催）で開催することができました。今回もミュオンのみならず中性子、放射光を用いた目覚ましい文理融合研究の成果や施設の各種性能向上などを、皆様で共有したいと思います。今回もミュオンのみならず中性子、放射光を用いた目覚ましい文理融合研究の成果や施設の各種性能向上などを、皆様で共有したいと思います。第 7 回は KEK 小林ホールでの開催を予定しております。

皆様のご参加をお待ちしております。

なお、11/3（木・祝）には、以下の先生方の一般講演を企画しております（詳細）。一般の参加者向けにオンライン配信いたしますが、シンポジウムにご参加いただく方は、会場でご講演をご聴講いただけます。

- 「非破壊分析とは？」 小杉信博 所長（KEK 物質構造科学研究所）
- 「医療文化財の最前線：「緒方洪庵の薬箱」が語る世界」 高橋京子 招へい教授（大阪大学）
- 「ミュオン非破壊分析で明らかになった小惑星リュウグウの成分」 寺田健太郎 教授（大阪大学）

世話人代表 下村浩一郎（KEK 物構研）

2022 年

11/2^水・3^木

オンサイト開催

KEK つくばキャンパス
小林ホール

参加費：無料

参加申し込み・
プログラム等
詳細は WEB を
ご覧ください。



<https://www2.kek.jp/imss/msl/2022/10/7.html>

お問い合わせ

高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学研究所
代表 下村 浩一郎
E-mail : bunri_yugo@ml.post.kek.jp

主催：高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学研究所

共催：人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館、国立科学博物館

協催：J-PARC センター、大阪大学 核物理研究センター（RCNP）、日本中間子科学会、

新学術領域「宇宙観測検出器と量子ビームの出会い。新たな応用への架け橋。」

大阪大学フォアフロント研究センター・先端ミュオン科学による文理協力型学術創出プロジェクト

SPring-8 ユーザー協同体（SPRUC）文化財研究会